

地域共生社会づくりに 認知症マフを活かす

朝日新聞厚生文化事業団が2018年度に開始した認知症マフの普及啓発活動は、全国のみなさまの共感を得て広がり、認知症マフをツールにコミュニティを活性化する取り組みが増えています。

認知症がある人もない人も自分らしく安心して暮らし続けられる地域づくりのために、地域包括ケアシステムに立脚した認知症マフ活用の考え方や各地の取り組みを紹介するセミナーを開催します。

ゲスト講師には若年性認知症の当事者であるフォトグラファー・下坂厚さんをお迎えし、暮らしの中での気づきや社会との関わりから感じる課題などをお話しいただきます。ぜひご参加ください。



セミナー内容

- ▶ 認知症マフの概要・各地の取り組み紹介 朝日新聞厚生文化事業団・森田英枝
- ▶ 取り組み紹介①「ボランティアと専門職が認知症マフでつくる西谷地区の人々の交わり」 藤野智誉子さん
②「地域共生社会実現に向けた取り組み、Twiddle Muffが果たす役割」 目麻里子さん
- ▶ トークセッション「認知症当事者の声を聞くためのヒントー誰もが地域で心豊かに暮らすためにー」 下坂厚さん×目麻里子さん

展示コーナー
各地の取り組みを
写真や手作りの
マフなどで
ご紹介します

ゲスト講師(ご登壇順)

ふじのちよこ

藤野 智誉子さん

兵庫県宝塚市西谷地域包括センター職員。社会福祉士、精神保健福祉士、認知症ケア専門士。2017年より同県内の包括で福祉に従事。2020年9月より現職。

さっかまりこ

目 麻里子さん

筑波大学医学医療系准教授。2017年に博士(保健学)を取得。介護離職防止支援やケアの質評価等、認知症のある人とその家族の支援に関する研究に従事し、2022年11月より現職。

しもさか あつし

下坂 厚さん

1973年6月生まれ。大手鮮魚店で勤務の後、友人と会社を立ち上げる。46歳で若年性アルツハイマー型認知症と診断を受ける。病気が発覚後、絶望を感じ仲間に迷惑をかけたくない思いから会社を退職。認知症初期集中支援チームを通じて西院デイサービスを紹介され、ケアワーカーとして正職員で勤務。現在は、業務委託に働き方を変え、同法人本部で写真のスキルを活かして広報を担当。写真家として、認知症当事者としての活動をメインに活躍中。



日程 2025年 **2/20** [木] 13:30~16:30

会場 朝日新聞大阪本社アサコムホール

(大阪市北区中之島2-3-18フェスティバルタワーイースト12階)

詳細・申し込み



会場アクセス



参加費／無料 定員／100人(先着順) 申し込み期間／2024年12月23日(月)正午以降、申し込みフォームから
※定員になり次第締め切り

主催・問い合わせ

朝日新聞厚生文化事業団大阪事務所 TEL:070-3349-4847(平日10時~18時)

メール:aswo-osaka@asahi.com



社会福祉法人

朝日新聞厚生文化事業団